

龍神界

龍神界などといふと現代人は荒唐無稽の説としか思はれまいが、実は立派に実在してゐるのである。それに就て私の体験から先にかいてみるが、私が宗教や靈の研究に入つた初めの頃である。或日精神統一をしてゐると、突然異様の状態となつた。それは口を大きく開くと共に、口が耳の辺まで裂けてゐる様な感じがし、眼輪爛々として前額部の両方に角の隆起せる如く思はれ、猛獸の吼えるが如き物凄い唸り声が自然に発するのである。私は驚くと共に、予ねて靈の憑依といふ事を聞いてゐたので、これだなと思つたので私は、此靈は虎か豹かライオンの如きものではないかとも思つてみたが、右の獸は無角獸であるからそうではない。そこで当時先輩であつた或指導格の人に質いてみた処、それは正しく龍神の靈であると言ふのである。其頃の私は龍神などといふものは實際あるかどうか判らないと思つてゐたが、そう聞くと成程と思つた。而も神憑りの場合、脊柱上方部の骨が隆起するやうな感じがしたのも龍の特徴である。其様

な事が何回もあつたが、その中に私以外のものが私の身体の中で喋舌るのである。それは右の龍の霊であつて、私に憑依した事によつて人語を操れるやうになつたと感謝し、種々の物語りをした。其話によれば、『自分は富士山に鎮まりゐます木之花咲爺姫命の守護神であつて、クスシの宮に鎮りゐる、九頭龍権現である。』と言ふのである。然るに其後数年を経て、私は初めて富士登山を試みたが、それまでは龍神から聞いたクスシの宮は山麓であると思ひ、尋ねたが見当らない。遂に富士山頂へ登つた。頂上の登口右側に大きな神社がある。見ると久須志神社と書いてある。あゝこれだな、全く龍神の言は偽りではない事が判つた。

右の龍神に就ては種々神秘があるが何れ他の著書で発表しようと思ふ。此事に依て私は龍神の存在を先づ知り得たのである。私は種々の点から考察するに此大地構成の初め、泥海の如き脆弱な土壤を固め締めたのは、無数の龍神群であつたが、龍神が体を失つた後、その霊が天文其他人間世界の凡ゆる部面に亘つて今も猶活動し続けつ

つある事も知ったのである。龍神が此大地を固めた。次が科学者の唱へるマンモス時代で、之は巨大なる象群が大地を駆逐し踏み固めたものであらう。今日満州の奥地から偶々発見される恐龍の骨などは最後の龍と思ふ。

又龍には種類が頗る多く、重なるものを挙げてみれば、天龍、金龍、銀龍、蛟龍、白龍、地龍、山龍、海龍、水龍、火龍、赤龍、黃龍、青龍、黒龍、木龍等である。伝説によれば、觀世音菩薩の守護神は金龍となつてゐる。浅草の觀音様を金龍山浅草寺といふのもその為であらう。又白龍は弁財天ともいひ、赤龍は聖書中にある、

「サタンは赤い辰なり」といふ言葉があるが、それであらう。黃龍及び青龍は支那の龍であり、黒龍は海の王となつてゐる。木龍は樹木に憑依してゐる龍である。抑々龍神なるものは如何なる必要あつて存在するかといふに、皆それぞれの職責を分担的に管掌の神から命ぜられ、それによつて不斷の活動を続けてゐるのである。就中天文現象即ち風雨雷霆等は、それぞれの龍神が祓戸四柱の神の指揮に

従ひ担掌するので、天地間の淨化作用が主である。其他一定域の海洋湖沼河川や、小にしては池、井戸に至るまで、大中小それぞれの龍神が住み、守つてゐるのである。從而、池、沼、井戸等を埋める場合、其後不思議な災厄が次々起る事は人の知る所である。

龍神の性質は非常に怒り易く、自己の住居を全滅せられた場合非常に怒るのである。それは人間に氣を付かせ、代りの住居を得んとするのである、故に初めから小さくとも代りを植へ、轉移の手續をすればよく、龍神は水がなくては居られないから小さい池か甕の如きものに水を入れても可い。元來龍神は靈となつても腹中熱する為非常に水を欲しがるのである。人間の死後龍神に化するといふ事は既説の通り執着心によるので、之等は靈界に於ける修業によつて再び人間に生れ替るのである。彼の菅原道真が死後、生前自己を苦めた藤原時平はじめ讒者等に対し、復讐の執着から火龍となり、雷火によつて次々殺傷し、終には紫宸殿にまで落雷し、その災禍天皇にまで及ばんとしたので急遽神に祭る事となつた。それが彼の天満宮で

ある。それ以来何事もなかったといふ事で、之等は歴史上有名な話であつて科学では一寸齒が立たない代物であらう。次に明治から大正へかけての話であるが、今の霞ヶ関にある大蔵省の邸内に彼の平将門の墓があつた。其に氣の付かなかった為、大蔵省関係者に不思議な災厄が次々起るので種々調査の結果、将門の靈の為ではないかといふ事になり、盛大なる祭典を行った処、それ以来何事もなくなつたといふ事で、之等も将門の靈が龍神となつて崇めたのである。そうして龍神に限らず凡ゆる靈は祭典や供養を非常に欲するものである。何となればそれによつて執着心が軽減され靈界に於ける地位が向上するからである。

龍神は大体画や彫刻にある如き形体であるが、有角と無角とあつて、高級の龍神は頗る巨大でその身長数里又は数十里に及ぶものさへある。彼の有名な八大龍王は古事記にある八人男女即ち五男三女神である。伝説によれば彼の釈尊が八大龍王を海洋に封じ込め、或時期まで待てと申渡したといふ事である。私の考察によればその時

期とは夜の世界が昼の世界に転換する時までである。因みに八大龍王は人間に再生し光明世界建設の爲、現在活動しつつある事になつてゐる。

昔から龍神の修業は海に千年、山に千年、里に千年といふ事になつてゐるが、之等も相等根拠はある様である。然し乍らこれも関係者の供養や善行等によつて期間は短縮されるのである。龍神は修業が済むと昇天するが、其場合雲を呼び暴風を起し、所謂龍巻といつて海水湖水等を随分高く上げ天に昇るので、之を見た人は世間に数多くある。それに就て私は一弟子から聞いた話であるが、或時松の木に霊ではない本物の蛇が絡んでゐる。凝乎と見てゐると蛇は段々木の頂上に昇り、終に木から離れて空中へ舞上った一と見る間にずんずん上昇し、終に見へなくなつたといふのである。之は実物であるから面白いと思ふと共に、有り得べからざる話のやうで、又あり得べき話でもある。

龍神の再生した人間は其面貌によつても判るのである。龍神型としては顴骨高く。額部は角型で、顙頁部は青筋が隆起してをり、眼は窪んだものが多く、顎も角張つてをり、特徴としてはよく水を飲みたがる。性質は氣位が高く人に屈する事を嫌ひ、覇氣に富むから割合出世する者が多い。龍系型を熟視すれば、龍といふ感じがよく表はれてゐるから、何人も発見する事は容易である。